

巻 頭 言

人間福祉学部長 芝野 松次郎

人間福祉学部そして人間福祉研究科が設置され2年目が経ちました。2009年4月には社会起業学科に3名、言語教育に1名の専任教員が着任し、当初計画した教員配置が整いました。人間福祉学部の教育研究活動は、徐々に軌道に乗りつつあります。

学部を構成する3学科は、少しずつそれぞれの個性を現してきています。

まず社会福祉学科ですが、法改正に伴い2年目から社会福祉士養成の教育課程が大きく改正されました。教務担当教職員や学科教員の超人的な働きによって、改正に素早く対応し、2009年4月1日から新課程をスムーズにスタートすることができました。また、日本社会福祉士養成校協会が新たに設けた「認定スクール・ソーシャルワーク」ですが、協会の認定を受けて教育課程を社会福祉学科に設置することができました。初年度認定された10校の1つとして注目を集めています。2010年度には、しっかりと社会福祉の基礎を学んだ学生がこうした国家資格などを目指して研究演習を選択し、本格的な専門教育を受けることとなります。ソーシャルワーク専門職についての学内外への啓発活動としては、本年度からソーシャルワーカーデー（7月20日）が設置されたことを受け、「切り拓く新たな社会福祉実践～若手社会福祉士の挑戦～」をテーマとする公開シンポジウムを人間福祉学部主催、日本社会福祉士養成校協会兵庫県支部共催によって開催するなど、さまざまな活動を展開しました。

社会起業学科は、海外インターシップなどの準備として英語短期留学を実施し、その第一期生をカナダに送り出しました。新型インフルエンザの影響も心配されましたが、参加者はしっかりと学びを終え、一回り大きく成長して無事帰国しました。さまざまな社会的活動に参加し経験を積みながら社会起業家を目指す学生たちへの支援を強化することになるプログラムの準備が2009年秋から始まっています。社会起業学科は、今年度文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業(テーマA)大学教育推進プログラム(GP)」に採択され、「社会起業家養成の革新的教育プログラム開発～基礎―専門―実践～応用教育を通じたウェルビーイングに寄与する社会起業能力の育成」を進めることになりました。社会起業学科の教育課程を強化する本格的な社会起業家の育成プログラムとして期待されています。取組の推進拠点として、G号館3階に「社会起業サポートセンター」が設置され、活動を始めています。今後、実験店舗の開設など教員と学生が一体となった活動が本格化していきます。その成果を大いに期待したいところです。

人間科学科は、こころとからだの両面からホリスティックに人間を捉え、自己実現を理解し、援助することのできる人材の育成をミッションとしていますが、現代社会が抱える「こころ」の問題がクローズアップされている今日、人間科学科のアプローチが注目されています。体験的な教育の取り組みはマスコミに取り上げられ、大きな反響を呼びました。また、人間福祉学科は、スポーツで活躍する学生も多く、2009年 KG スポー

ツのファンを興奮させたラグビーとサッカーの関西制覇にも貢献しています。2010年度からは研究演習が始まりますが、国家資格である精神保健福祉士の取得や、関学では初めての保健体育教職免許の取得を目指す学生が出てくることが期待されます。

『Human Welfare』第2巻第1号には、こうした3学部に関するさまざまな情報がふんだんに盛り込まれていますので、徐々に個性を發揮し始めた各学部の状況を読み取っていただければと思います。また、教員はもとより、大学院生や研究員による学術論文等の寄稿も盛んになっています。こうした寄稿論文を学部生のみなさんにも是非読んでいただき、人間福祉学部・研究科の研究に触れていただきたいと思います。

『Human Welfare』が人間福祉学部・研究科における教育と研究、そして学生活動の情報誌としてますます充実したものとなることを願って止みません。